



札幌に引っ越し29年、北海道勤医協で働いています。87年当時、ニュースを見ながら父が「なぜ線路を叩

を削減する方策を推し進め医療制度も改悪が続きました。私にとつて、特に「給食の保険はずし」が大きな出来事のひとつでした。もともと病院給食は診察、薬剤、手術などと同様の扱いで、治療の一環として療養の給付（保険の範囲）となっていました。しかし94年に「家にいても食事はするのだから」と保険からはずさ

札幌地区労連新役員紹介（会計監査） 勤医労事務局支部 佐藤 龍子さん

勤労事務局支部の佐藤龍子です。このたび会計監査に選出されました。至らぬ点も多々あるかも知れませんが、諸先輩方に学びながら頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

くだけで、どこが不具合か
わかるべテランの国鉄マン
を首切りするのか!」と怒つ
ていて、社会のことをわから
らない私でも何か大きな力
で理不尽なことが行われて
いることを肌で感じました
80年以降は、国は国民の自
己負担を増やし、国庫負担

「人生の引き出し」が増えるならと専従を経験

(前ページより続く)
通告のやり方も非常識でオンライン授業で出勤していいないにも拘わらず時間外で呼びつけようとするなどしていました。他大学の業務などもあり呼び出しに応じられないままでいると、メールで一方的に「2022年度の契約書に『次年度の更新はしない』と書く」と通告され、サインを強制されました。

札幌キャンパスでは私以外にも数名、理系科目担当の非常勤講師が雇止めになります。同じく雇止め通告を受けた同僚が横浜地区労働組合に加入したところ、全国のキャンパスで同様の

雇止めが発生していることが分かりました。私も首都圏組合に加入し、共闘することになりました。

5月に東海大学教職員組合を結成し、無期転換申込書や団体交渉を行つてきましたが、大学側は不誠実な応に終始し、組合広報を主ともに取り扱わない上、無期転換については「研究者は10年なので認めない」(※1)、「大学の指定した正式な申出でない」(※2)などと主張して脱法行為を正当化し、さらには組合員であることを公然化した非常勤講師に雇止めを通告するなどしてきました。これ以上の団交は無意味と判断し、提訴及び労働委員会へ

国のある方で、私たちの暮らしや平和の問題をはじめ、職場の要求までもが大きく左右されることを身に染みて感じてきました。そしてやられるばかりではなく仲間とともに闘いに立ち上げることで変えられることを学んできました。これからも微力ながら「職場に団結を！地域に統一を！」と奮闘していくかと思います。

監査

ことを今でも覚えています。

医療制度の矛盾を、闘いとともに目の当たりにしました。その後、「労働組合の専従にならないか」と声をかけていただき、自分の人生のなかで栄養士だけでなく、人として生きていくうえで「人生的の引き出し」が増えるなら頑張ってみよう

の申立てを行うことになりました。先ずは5年以上勤務する非常勤講師8名が答弁陣として無期転換を認めるよう提訴します。私は勤務3年目で無期転換は出ませんが、首都圏非常勤講師組合が2019年に東海大学と団体交渶した際に養部長が「大量雇止めの計画はない」と発言しておられこれを実行してもらうとう主張をするつもりです。

「『カリキュラム変更の場合は』と言えば非常勤講師はいつでも首にできる」といふ大學特有の悪習を何とかしても阻止したいと思いま



13回「地域医療と国立病院の充実を求める札幌連絡会」定期総会を会員15人の出席で開催しました。冒頭、佐藤会長が挨拶。新型コロナウイルスの感染拡大に対する政府の無策を指摘、北海道や札幌で患者数・死亡者数の割合が最悪となつていていることに触れ、保健医療体制の拡充を求めました。また、国立病院機構の積立金を国庫に返納させて、軍事費に転用させとの検討がされていること

国立病院充実求める連絡会が総会

請も出来ない。10年ルームに該当せず5年で無期転換という司法判断が出ていて、その時点で成立し、雇用者は拒否できない。

戦争させない北海道委員会が主催して、12月18日「敵基地攻撃能力保有」に反対する抗議集会が大通西8丁目広場で開催され、500人が参加しました。岸田自公内閣が「敵基地攻撃能力（反撃能力）保有を明記した『安全保障閣連3文書』を閣議決定した」と抗議して行われました。

敵基地攻撃能力保有反対！ 抗議集会に500人



いと表明
全医労北海道地方協議会の三上書記長から、現在の日本の医療体制の問題と国立病院の現状を説明。その上で、3年目を迎える全医労の『大運動』の取り組みについて訴えました。

医療センター・がんセンター、両病院の出席者から職場実態について北海道医療センターでは、「新型コロナ感染第8波といわれる時期に入り患者数が増えている、それに伴い職員

平時からの配置人員がギリギリの状態で運営されているため、コロナによつて一気に矛盾が出している実態が明らかにされました。労働組合にしかできない仕事をコロナ禍で、組合の活動自体が困難になつていて、状況があるが、当連絡会加盟の退職者会や医労連・国公・地区労連、お互い連携しながら職場の改善につなげていこう、とまとめまし

障害改善を要請

幌地区労連の木村事務局長が「積雪都市・札幌では大雪から市民生活を守ることが重要な行政の役割。札幌市の責任で除排雪対策を抜本的に改善して欲しい」といさつ。東区、北区住民や女性、業者団体などから昨冬の教訓をいかし市民の命や生活を守るよう要請しました。最後に木村事務局长は「除排雪を自己責任にするのではなく市の責任で対策を講ずるよう」再度要請しました。「署名」は引き続き行われます。札幌地区労連も1月中旬を目処に集約する予定ですのご協力を！